



No.95 2010・4・20

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM

発行 石川県立歴史博物館

〒920-0963 金沢市出羽町3番1号

TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836

http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/



ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

れ
き
は
く

春季特別展

シャルジャ、砂漠と海の文明交流

—アラビアの歴史遺産と文化—



青銅器時代の石積み円形墓（ムレイハ遺跡）

会 期

4月24日(土)~6月6日(日)

会期中無休

会 場 第1・2特別展示室・第4展示室

主 催 石川県立歴史博物館、アラブ首長国連邦シャルジャ首長国、金沢大学

共 催 北國新聞社

後 援 (NKK) 金沢放送局、北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、北陸朝日放送、金沢ケーブルテレビネット、エフエム石川、ラジオかなざわ、ラジオななお、ラジオこまつ

協 賛 小松精練株式会社

開館時間 午前9時~午後5時

(入館は午後4時30分まで)

入 館 料 一 般 750円(600円)

大学生 600円(480円)

高校生以下無料

65歳以上の方は600円

()内は20名以上の団体料金

記念講演会 <聴講無料>

日 時 5月22日(土)午後1時30分~3時

会 場 学習ホール

講 師 金沢大学人間社会研究域教授 佐々木達夫氏

演 題 「アラビア半島を掘る」 申込不要・聴講無料

(展覧会観覧の場合は入館料が必要)

春季特別展

シャルジャ、砂漠と海の文明交流

アラビア半島。わが国にとっては、石油の輸入を頼みとする深い関係にありながら、その歴史や文化については、まだまだ未知の世界といえます。そうしたなか、金沢大学考古学研究室では二五年間にわたって「海の文化交流史」をテーマにアラビア半島の考古学調査を続けてきました。

調査を主導してきた同大学佐々木達夫教授は、「アラビア半島の砂漠と港町を掘ると、海のシルクロードが見える」といいます。それは、遺跡から出土する世界各地の陶磁器の破片をみると、アラビア湾（ヘルシア湾）を通じた壮大な交流の歴史が浮かび上がってくるからです。アラビア湾岸は、東西世界をつなぐ文明交流の結節点だったのです。

このたびの展覧会は、アラブ首長国連邦の一国にあつて、もともと考古学調査が進んでいるシャルジャ首長国の遺跡と出土品をもとに、東西世界の交流という視点からアラビア半島の歴史を垣間見ようとするものです。

アラブ首長国連邦の石器時代

アラブ首長国連邦における人類の歴史は、一五万年から二〇万年前頃といわれています。新石器時代（紀元前五〇〇〇年～紀元前三〇〇〇年頃）では、土器を作り、ラクダ・ガゼル・オリックス・ロバなどの野生動物を捕獲し、ヤギやヒツジ・牛を追って



文様を刻む石製容器

の放牧、あるいは漁労での営みがありました。

この頃、すでに海を越えた交流がはじまり、海岸の遺跡ではメソポタミア土器や石器が発見されています。また、住居跡の発見は少ないものの、プハイス遺跡では、真珠や貝、色鮮やかなカーネリアンビーズなどを身に付けたひとびとの墓が発見されています。



玉髓製ネックレス

青銅器・鉄器時代

次の青銅器時代（紀元前三〇〇〇年から紀元前一三〇〇年頃）では、ナツメヤシ・大麦・小麦を栽培する農業も盛となり、ヤギ・ヒツジ・牛などの家畜化も進みました。生活用具では、土器のほかに、ステアタイト（緑泥石）を材料とする石製容器も盛んに用いられました。また、山岳地帯では銅鉱石の採掘・精錬が始まり、青銅の武器・容器・装身具などが生産されました。

豊かな銅資源はメソポタミアに輸出され、その見返りに土器などが輸入されといった、遠距離交易が活発に行われました。メソポタミアとインダス文明を結ぶ中継貿易がアラビア湾岸の繁栄をもたらしたことから、青銅器時代のこの地域は中間文明とも呼ばれます。

紀元前二七〇〇年から二〇〇〇年頃、この地域ではウンムアンナール形式と呼ばれる独特の石積墓がみられました。それは、たくさんの人骨を葬る共同墓地で、直径七mから一〇mほどの円形墓で、内部を仕切り壁で四部屋に分けるのが一般的です。

砂漠に接する岩山斜面にあるプハイス遺跡は、青銅器時代全般にわたっての墓の変遷が窺える貴重な遺跡で、彩文土器や軟質石製容器のほか輸入された武器や装身具などの多様な副葬品が出土しており、交易に支えられた当時の生活と文化が窺えます。

鉄器時代（紀元前一三〇〇年～紀元前三〇〇年頃）になると、生活が安定して人口が増加し、村の形成が進みました。ファラージュと呼ばれる地下式の灌

溉施設が登場して農地の拡大が進み、ラクダの家畜化にも成功して交易が一層盛んになりました。

ヘレニズム・パルティア・ササン朝・初期イスラーム時代

アレクサンドロスの東方遠征を契機として、ギリシア世界と今のイランがひとつの文化圏に融合しました。ヘレニズム文化です。アラビヤもギリシア・ローマとの交流が盛んになり、ヘレニズムの影響が及びました。ローマの貴婦人は、アラビア湾で採れる真珠を珍重するとともに、香料やスパイスを好んだといわれています。

ハジャール山脈の西側平原の砂漠に位置し、陸のキヤラバンルートに沿うムレイハ遺跡では、地中海から運ばれたアンフォラやギリシア黒絵式陶器、さらにはギリシアの銀貨を模倣した青銅コインが出土しています。また、乳香を特産とする南アラビアの文字を記す墓誌や青銅容器もみられます。紀元前後には、こうした交易拠点都市の形成や乳香貿易による交流圏の拡大と活発化が知られます。

その後のパルティア・ササン朝時代のアラビアについては、人口が減少した時期とされ、遺跡の発掘も少なく、その実態は不明とされています。

七世紀前半、アラブは大帝國を築き始め、イスラームの時代がはじまります。アッバース朝の首都バグダットの繁栄とともに、アラビア湾は西と東の国際交易ルートとして重視されました。この時期、船乗りシンドバッドの冒険で象徴されるように、季節風を利用してダウ船とよばれる木造帆船を操りなが

ら海洋を横断するアラビア商人の活躍がありました。その居留地は中国唐代の広東にまで及び、アラビア商人は大食人と呼ばれました。

大航海時代のアラビア半島

一六世紀初め、ポルトガルがアラビアからインド洋の覇権を奪おうと、各地に商館や砦を築きました。イスラーム勢力は各地でポルトガルに反撃しましたが制圧され、インド洋の交易はアラビアからヨーロッパ船の活躍に取って代わりました。

オマーン湾岸のコールファッカン遺跡は、海を見下ろす砦を控えた一四世紀から一六世紀にかけての



コールファッカン遺跡での発掘



青銅の腕輪

港町跡で、地元土器に混じって、中国・ベトナム・ミャンマ・イラン・オマー

ンから輸入された陶磁器が見られ、当時の海上貿易の様子が生かされています。

アラビアの文化遺産

本展では、歴史学者でもあるシャルジャ首長国首長が二五年以上にわたって収集したアラビア半島に関する古地図コレクション、乳香やアラビア書道などの伝統文化、ナツメヤシの工芸品や遊牧民の華やかな装身具も展覧いたしますので、砂漠と海を舞台に生を謳歌するアラビアのひとびとの暮らしや文化についても理解を深めていただきたいと思います。

なお、本展の開催は、金沢大学考古学研究室佐々木達夫先生、同埋蔵文化財センター佐々木花江先生ならびにアラブ首長国連邦シャルジャ首長国政府の全面的な協力によるものです。末尾ながら、記して感謝申し上げます。



アラビアのコーヒーポット

貸出中の館蔵品

他の施設でも見られる歴博の貴重資料

歴博の館蔵資料は総数約十六万点にも及びますが、その一部は、県内外を問わず、他館の展覧会に貸し出されることとが少なくありません。また放送局や出版社へのポジフィルムなどの貸し出しも、よく行われています。展覧会や催し物などに比べるとあまり知られていない業務ですが、これも博物館の重要な仕事の一つなのです。

・「大月（槻）伝蔵錦絵」

企画展「犀星と加賀の昔話

城下町に伝わる怪談・奇談」

三月十三日(土)～六月十七日(日)

会場：室生犀星記念館

(金沢市・〇七六 二四五 一一〇八)



大月（槻）伝蔵錦絵

主な刊行物のご案内

石川県立歴史博物館展示案内 石川県立歴史博物館蔵品目録 冷泉家の歴史と文化 モダンの調べ 蓄音機 太子信仰と北陸 聖徳太子へのあこがれ 永光寺の名宝 紀尾井町事件 武士の近代と地域社会 うさぎワンダーランド 祝い絵 ティスフレイの民俗誌 能楽 加賀宝生の世界 利家とまつが生きた時代 戦い・くらし・女たち 景勝をめぐる いしかわの景観史 いしかわの歌仙絵馬 風俗画伯 巖如春 都市の記憶を描く 源平合戦と北陸 義経伝説を育んだふるさと 加賀百万石への道 戦国から太平へ 昭和ワンダーランド モノでたどる戦後 石川のお宝史 名宝から文化財へ 弥生ムラの風景 越のクニ生み・境界・交流 御用絵師梅田九栄と俳諧 肖像画にみる加賀藩の人々 S.O.S. 百・華・繚・乱 丸紅所蔵衣裳名品展 春日懐紙・春日本万葉集とふるさとの文芸 本願寺展 世界遺産の歴史と至宝 シャルジャ、砂漠と海の文明交流	(税込定価)
一、	〇〇〇円
二、	五〇〇円
三、	〇〇〇円
四、	〇〇〇円
五、	〇〇〇円
六、	二〇〇円
七、	二〇〇円
八、	七〇〇円
九、	七〇〇円
一〇、	〇〇〇円
一一、	二〇〇円
一二、	九〇〇円
一三、	二〇〇円
一四、	四〇〇円
一五、	四〇〇円
一六、	六〇〇円
一七、	二〇〇円
一八、	〇〇〇円
一九、	三〇〇円
二〇、	二〇〇円
二一、	三〇〇円
二二、	三〇〇円
二三、	価格未定

総合カウンターで販売中。定価はすべて税込。郵送ご希望の方は、当館へ直接お問い合わせいただくか、当館ホームページ「刊行物案内（図録等）」をご覧ください。（電話〇七六 二六二 三三三六）



行事日程（4～7月）

月日	行事	内容
5/7(金)	常設展示ワンポイント解説	「れきはくメイト情報」をご覧ください。 当館ホームページでも、最新情報を ご案内しています
5/15(土)	れきはくゼミナール	
6/4(金)	常設展示ワンポイント解説	
6/19(土)	れきはくゼミナール	
7/2(金)	常設展示ワンポイント解説	
7/10(土)	れきはくゼミナール	
7/10(土)	れきはくゼミナール	

開講時間：午後2時

会場：常設展示ワンポイント解説：関係各展示室

れきはくゼミナール：学習ホール

受講料：常設展示ワンポイント解説：展示室内行事につき、入館料が必要
れきはくゼミナール：無料

申し込み：不要

常設展示ワンポイント解説

常設展示室の資料を、当館学芸員がワンポイント解説します。原則として毎月第一金曜日に実施。時間は午後2時から2時30分まで。どなたでも参加できます。（従来の「常設スポット解説」と同じ内容です。新年度より名称と実施曜日が変更になりました）

れきはくゼミナール

当館学芸員が歴史や文化に関する様々なテーマを取り上げてお話しします。原則として毎月第三土曜日に実施。時間は午後2時から3時30分まで。どなたでも参加できます。



常設展示ワンポイント解説



れきはくゼミナール

「れきはくコレクション2009」終了

画展は年度中に当館へ寄贈された資料を中心に、購入資料や未公開の資料などをお披露目する、年度末恒例の行事です。特に今回は、石川国体関係資料が寄贈されたことにあわせ、大会キャラクターだった、あの「げんき」人形（当館所蔵！）が久々に登場。「げんき」君とのツーショットまで楽しめた、充実の三十一日間でした。



三月二十二日、「れきはくコレクション」展が好評のうち閉幕。この企

「新春を祝う-お正月と大衆娯楽-」終了

二月七日、三十五日間に渡って開催されていた企画展「新春展」が終了。かつては庶民の大きな楽しみだった、正月の映画や芝居などの大衆娯楽に關係した資料と、雪の多い石川県ならではの室内遊び資料とをあわせてご紹介しました。昔懐かし「天神堂」の組み立てなどもこのほか人気があったようで、多くの皆様に楽しんでいただきました。来年のお正月も乞う期待！



催事日録



昨年秋、第一棟二階にあった「歴史スポットルーム」が第四展示室に移転し、「歴史スポット展示コーナー」として新たにスタート。展示ケース一つか二つの、ささやかなコーナーです。当館学芸員がそれぞれの専門分野に応じて順番に担当。まさに個性あふれるこだわりのコーナーを目指しています。味のあるユニークなコーナーにしたいと、一同知恵を絞っています。列品解説もありませんので、博物館情報は要チェック。

当館は韓国・全州市の国立全州博物館と姉妹提携を結んでいます。昨年秋より館内に姉妹館交流コーナーを開設しました。第一棟の二階、移築民家等のある第三展示室入り口右側の大きな展示ケースで、これまで「歴史スポットルーム」として使われていた場所です。全州博物館からの贈答品や展示案内資料などが現在公開されています。ぜひご覧ください。



学芸員こだわりの展示コーナーはここだ！

姉妹館交流コーナー開設

次回の展覧会

夏季特別展
トキ舞う空へ 鳥と人の文化史
7月17日(土)～8月31日(火)

トキの研究者・村本義雄氏が収集した貴重な資料をもとに、トキの保護と再生にいたる軌跡をたどるとともに、鳥と人のつきあいの歴史を、石川県を舞台に多角的に紹介します。



能里剥製 (本州最後のトキ)



飛翔するトキ 昭和37年12月29日 村本義雄氏撮影



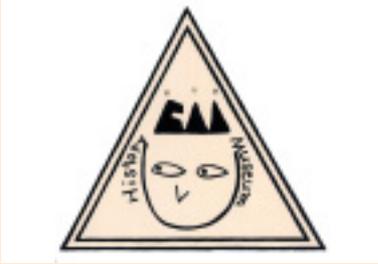
梅田本 食火鶏 (石川県立工業高等学校所蔵)

展示替え等による休館日(4～7月)
4月21日(水)～23日(金)
5月 休館日なし
6月7日(月)～8日(火)
7月15日(木)～16日(金)

れきはく
トリヴィア

記念スタンプ誕生

前号でお話したシンボルマーク関連の話題（昭和六十三年）を続けます。シンボルマーク応募作品は全部で一九六点あり、採用作品以外にもなかなかの力作が集まっていました。そこでスタンプ賞を設け、



受賞作を記念スタンプとして採用することに決定。こうして選ばれたのが現在休憩コーナー（総合カウスター前）に置かれている四点です。偶然ですが全員県内高校女子生徒の作品でした。製作者自身による当時の作品説明の記録が残されているので、紹介しましょう。（写真はすべて原画）

歴史博物館の象徴たる尖塔と、扉のついた窓を取り合わせてみました。

歴史博物館の特徴である窓と、屋根の上の塔を単純化して組み合わせました。

歴史博物館と石川県のマークを合わせました。木を使い、両方を一つにまとめた感じのものにしました。

人物の頭の部分は、石川県のマークをアレンジして王冠を表し、石川県や歴史博物館の立派な様子、偉大な様子といったものを表現した。人物は、人間が歴史を見つめている。また歴史を見つめかえす意も示し、多くの人々が博物館に訪れてくれるように、との願いを込めて、まとめて王様（ES-TORYと MUSEUMで髪を表現）を表し、これもまた歴史の持つ偉大さといったものを表現した。顔を囲む三角形はピラミッドなどから連想されるトライアングルを表し、歴史の不思議さなどを表現した。

記念スタンプは毎日大勢の人に使われるため、しばしば破損し、そのたびに修理を繰り返してきました。シンボルマークとともに、しっかりと歴博を支え続けているのです。

トリヴィア＝雑学的な事柄や知識、豆知識

平成二十二年度れきはくメイト
会員募集 中 !!

「れきはくメイト」は、歴史博物館をより身近なものとしてご利用していただくための会です。会員になりますと次のような特典があります。

- 一、常設展・企画展が何度でも無料入場可能（会員証提示が必要。特別展開催時は団体料金割引）
 - 二、特別展招待券進呈（当館単独主催展の場合のみ）
 - 三、広報誌「石川れきはく」、会員向け情報誌「れきはくメイト情報」配布
 - 四、歴史博物館最新情報を随時提供
 - 五、「歴史散歩」や「バスツアー」など当館主催行事への参加（定員超の場合は抽選）
 - 六、提携施設の入館料割引（各館主催展覧会が団体料金に割引・会員証提示が必要）
- 対象施設 石川県立美術館・石川県七尾美術館・石川県輪島漆芸美術館・珠洲市立珠洲焼資料館

対象 どなたでも入会できます。

会員の期間 平成二十三年三月三十一日まで。

年会費 年額一〇〇〇円

定員 定員はありません。随時受け付けています。

入会申込・問い合わせ先 普及課 〇七六 二六二 三四一七



バスツアー



会員証



歴史散歩

本多の森林から

この春は、国内では珍しいアラビア半島の考古学展で幕開けです。ところで、シャルジャ首長国の公用語はもちろんアラビア語。意外なことにこのアラビア語、実は私たちにもずいぶん馴染みがあるのです。例えばアルコール、アルカリ、コーヒー、シャーベット、シロップ、タンバリン、マッサージュ…。これらはみなアラビア語を起源とする言葉。案外遠くて近い国なのかも。

さて今年度では、このシャルジャ展をはじめとする三つの特別展と、二つの企画展を開催します。スタッフ一同意気込みも十分。皆様のご来館を心よりお待ちしております。